



食品中の放射性物質③

「放射線の健康への影響」



1. 放射線の人体への影響の大きさを表す数値(線量)がシーベルト(Sv)です

- (1)自然界からの線量… 2.100ミリシーベルト/年 内食品から… 0.990ミリシーベルト/年
(2)福島原発事故直後の福島浜通りの原発事故由来と考えられる線量…0.007ミリシーベルト/年

2. 放射線を受けた時の体への影響

- (1)一度に大量の放射線を受けると
体にいろいろな症状が出ます。

7000ミリシーベルトを超えると — 100%の人が死亡
3000～5000ミリシーベルト — 50%の人が死亡
1000ミリシーベルト以上 — 気分が悪くなるなどして、最悪の場合には死亡
500ミリシーベルト — 血液中のリンパ球の数が一時的に減少
100ミリシーベルト以下 — 臨床症状は確認されていません。

- (2)がんになるリスクの比較

	がんになるリスク
1000～2000ミリシーベルト	1.80倍
喫煙・飲酒(毎日3合以上)	1.60倍
やせ過ぎ	1.29倍
肥満	1.22倍
200～500ミリシーベルト	1.19倍
運動不足	1.15～1.19倍
塩分のとり過ぎ	1.11～1.15倍
100～200ミリシーベルト	1.08倍
野菜不足	1.06倍

※対象:40～60歳の日本人 出典:(独)国立がん研究センター調べ

- ①100ミリシーベルトを被ばくした時のがんの発症率は通常の1.08倍になります。
②100ミリシーベルト以下だと、その影響ははっきりしません。
喫煙や過度の飲酒、高塩分食生活より、影響は小さい。
③多くの科学者は10～20ミリシーベルト程度を下回る場合は、
がんリスクを気にしても実質的な意味がないと考えています。

3. まとめ 原発事故による放射線 ※5・6月の記事も参照ください。

現在、食品中の放射性物質に関する管理措置が効果を発揮しており、日常の食生活から摂取する放射性セシウムは、健康に被害が生じる量ではないと考えます。

- (1)流通している食品からの、「原発事故由来と考えられるセシウムの線量」は

- ①セシウムの基準値(100ベクレル)の根拠とした「年間被ばく線量1ミリシーベルト」の1/100以下
②食品中の天然放射性物質からの被ばく線量の1/100以下

- (2)農産物や畜産物は、放射性セシウムの低減対策が行われ、その効果が出ています。
(3)水産物や山菜、キノコ類等、基準値を超過する可能性のある食品(地域)は「出荷制限」措置が取られています。
(4)福島第一原発事故直後から、いずみ市民生協の検査では、基準値(100ベクレル)を超えて検出されることはなく、ここ3年では、測定機器の検出限界値を超えて検出されることもなくなっています。

「食の安全お茶会(ミニ意見交換会)」を開いてみませんか。

機関誌いずみの「食の安全 基本のお話」連載に当たり、一方通行的な情報の発信だけでは良くないと考え「意見交換の場」として開催を呼びかけています。3名以上お集まりいただければ、担当がお伺いして、みなさんの関心のあるテーマに沿った情報の提供を行い、ご意見を聞かせていただくという企画です。

- コープ委員会等で開催される場合は、組織スタッフにご相談ください。※組合員活動ハンドブック参照
■個人で開催される場合は、「組合員活動Webアピエ」で通年受け付けています。



書籍紹介

『食品を科学する—意外と知らない食品の安全』 食品の安全を守る賢人会議(著) 2015/6/3

我が国の食品の安全を担っている食品安全委員会の委員の有志が賢人会議として、日頃気になっている食品安全のアレコレについて明快に解説します。

『長村教授の正しい添加物講義』 長村 洋一(著) 2015/5/20

無添加はナチュラルで安全? 添加物を摂るとがんになる?添加物のホントの話。

鈴鹿医療科学大学副学長・教授で、食に関する正しい情報を発信する「日本食品安全協会」の理事長。